

## — 特 許 記 事 —

## 最近の製鉄鋼業界に於ける発明

特許出願公告 (昭和 30—4—21)

- 公告番号 発 明 の 名 称 (発明者) 出願人  
 昭 30—2605 取鍋で脱炭処理を施せる強力鑄鉄の製造法 (越智郷朗外 3) 住友機械工業K.K.  
 キュボラ其他の溶解炉で得られる普通成分の溶鉄に 1~6% に相当する量の硅化石灰を取鍋中に添加し溶鉄中の炭素の一部を硅化石灰中の Ca と反応せしめ炭化カルシウムとして除去する方法。

特許出願公告 (昭和 30—4—25)

- 昭 30—2757 鋼塊鑄造方法 (西村辰雄外 1) 昭和電氣製鋼 K.K.  
 側壁の内側に炭素質物をもつて厚肉の中空筒を構成しその内面に黒鉛粉, アルミニウム粉等を塗布し熔鋼を注入する方法。

特許出願公告 (昭和 30—4—30)

- 昭 30—2951 滑円式波形ローラー型電磁選鉱機 (奥村金作) 同人  
 電磁石の間にあるローラーの表面に縦に三角波山を作りその谷部を非磁性物質で填充して表面を平滑に仕上げて電磁的選鉱をしたものの中に不純物を巻込むことのないようにしたもの。

- 昭 30—2953 耐 熱 鑄 鉄 (塩崎広嗣外 1) 住友機械工業 K.K.  
 全炭素 1.8%~3.2%, Si 1.0%~6.0%, Al 10.8%~7.5%, Cr 0.5%~1.8%, Ca 0.01%~0.10% 少量の Mn, P, S, 残余鉄からなるもの。

- 昭 30—2956 鑄物砂組成物 (ジョン・アラン, ウィケット) モンサント, ケミカル, コムバニー  
 鑄物砂, 粘土, 水及び少くとも 10000 の平均重量分子量を有し脂肪族不飽和群の重合によつて誘導される概して直線的連続炭素鎖を有する重合水溶性多電解質を包含するもの。

- 昭 30—2957 鑄 造 用 鑄 型 (松崎義雄外 1) 東洋可鍛鑄工 K.K.  
 湯口に連なる鑄型のみきり面上に湯溜を設けこの湯溜と押湯部又は鑄造用空腔との間を一水平面上に平行乃至準平行に形成した屈曲部を持たない多数の細い直線湯道で連絡したもの。

- 昭 30—2961 水冷式定盤を使用する鑄造法 (酒井佐敏) 関東特殊製鋼 K.K.  
 水冷式定盤を備えた鑄型により, 定盤を冷却しつゝ凝固せしめる鋼塊の鑄造方法。

特許出願公告 (昭和 30—5—9)

- 昭 30—3051 小型鑄鉄炉に於ける送風予熱装置 (中島統一) 中島炉工業K.K.  
 余熱排出路内及送風炉内に夫々蓄熱室及放熱室を介在させ, 耐火性小片の多数を蓄熱室内から放熱室内に向けて連続的に移動させ, 送風炉内を通過する空気を連続的に余熱する様にしたもの。

特許出願公告 (昭和 30—5—14)

- 昭 30—3201 溶解炉及びこれに類似する炉の羽口 (堺千代次) 住友金属工業K.K.  
 楕円錐形の長軸を水平に置きその先端部を短軸を含む垂直面で羽口中心線に対して斜断したもの。

- 昭 30—3203 高周波焼入方法 (風戸健二外 1) K.K. 日本電子光学研究所  
 焼入せんとする被加工体を回転軸上に固定し, 母型工具を側軸上に装着し被加工体と母型工具とを嚙合又は適合状態を以て回転運行せしめつつ被加工体を高周波誘導的に加熱し, 焼入温度に達したとき被加工体を急冷する方法,

- 昭 30—3206 鋼の還元製錬法 (岩瀬慶三外 1) 金属材料研究所長  
 (1) アルカリ金属又はアルカリ土類金属の酸化物, 炭素塩, 弗化物の夫々単独又は混合物に炭素, 珪素又はアルミニウムの何れか 1 種又は 1 種以上を配合することにより成る還元性鑄滓又は (2) アルカリ金属又はアルカリ土類金属の青化物, 石灰窒素の 1 種又は 1 種以上を配合せしめることにより成る還元性鑄滓の各単独又は両者の混合鑄滓を以て任意成分の鑄鋼を溶解炉に於て還元精錬する方法,